

SHINJO妊娠期からの支援における多職種連携のあり方を考える会
第3回 研修会

妊娠期から子育て期の家族を支える
～神経発達症（発達障害）の特性のある親への支援～

このたび、神経発達症（発達障害）の特性のある親について理解を深め、また特性によって他者とのコミュニケーションや育児上の困難を抱える親への関わり・支援のあり方や課題を共有すること、また関係職種・機関の連携を促進することを目的として、研修会を開催することになりました。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

参加
無料

【日時】 2026年3月13日（金）13時-17時

【会場】 神戸女子大学ポートアイランドキャンパスF館3階F304

（今回は会場参加のみとなります）

【対象】 妊産婦・家族の支援に携わる専門職等（医師、助産師、
保健師、看護師、医療ソーシャルワーカー、心理士、保育士、自治体担当者等）

【定員】 70名

申込期間

2025年12月22日（月）～2026年3月4日（水）12時

研修内容

【第1部】 パネルディスカッション

● 『神経発達症（発達障害）の特性をもつ親の理解と対応』

演者：藤平和吉氏（利根中央病院精神神経科部長・群馬大学医学部非常勤講師）

● 『育児困難のある親への関わり：保育士の立場から』

演者：福井恵子氏（神戸市立灘保育所・所長）

【第2部】 グループワーク

* 詳細は裏面

* 希望者には修了証を発行します。

申し込み方法

申し込みフォームよりお申し込みいただけます

申込先

URL

<https://forms.office.com/r/9Js0JcdmFF>

QRコード



<プログラム>

時間	内 容
12:30～13:00	受付
13:00～13:10	開会のごあいさつ
13:10～14:50	【第1部】 パネルディスカッション ・藤平和吉氏(利根中央病院精神神経科部長・群馬大学医学部非常勤講師) 『神経発達症(発達障害)の特性をもつ親の理解と対応』 ・福井恵子氏(神戸市立灘保育所・所長) 『育児困難のある親への関わり:保育士の立場から』
14:50～15:00	休憩
15:00～16:55	【第2部】 グループワークとディスカッション 1)グループワーク ・神経発達症(発達障害)の特性のある親への関わりや支援の実際や課題について、互いに共有する ・第1部(パネルディスカッション)を通しての学び、気づき、神経発達症(発達障害)の特性のある親への関わりや支援について意見を聴き合う 2)全体ディスカッション:各グループからの発表とディスカッション
16:55～17:00	閉会のごあいさつ

演者紹介

藤平和吉氏(利根中央病院精神神経科部長・群馬大学医学部非常勤講師)

医師。学校教職員を経て精神科医に。産婦人科・内科・外科等と連携するコンサルテーション・リエゾン精神医学(含・緩和ケア)、学校や地域と連携する児童思春期精神医学が専門分野だが、医療過疎地域で地域精神医療を幅広く行っている。2019年度群馬大学ベストティーチャー賞学長賞受賞。

福井恵子氏(神戸市立灘保育所所長)

神戸市立保育所の所長として竜が台保育所(須磨区)、明泉寺保育所(長田区)を歴任。本年4月より現職。

「SHINJO妊娠期からの支援のための多職種連携のあり方を考える会」について

近年、妊産婦の孤立・孤独が社会問題となっており、さらにコロナ禍を経て妊産婦のメンタルヘルス問題も深刻化している中、妊産婦と家族への支援の重要性はさらに増しています。ただし、妊産婦や家族のニーズは多様であることから、関係する機関や職種が多岐に渡るなど課題が多く、有機的な連携は容易ではありません。

このような状況を受け、2024年9月に神戸女子大学(SHINJO)看護学部教員らにより、「SHINJO妊娠期からの支援のための多職種連携のあり方を考える会」を設立しました。本会は、妊産婦と家族のニーズに基づく支援を妊娠期から継続して行うため、多職種が互いの役割・機能の理解を深め、連携上の課題を具体的に明らかにし、連携のあり方を検討することを目的としています。

<会場へのアクセス>

神戸女子大学 看護学部

〒650-0046 神戸市中央区港島中町4-7-2

➤ 三ノ宮駅・三宮駅からは、ポートライナーの「神戸空港行き」「北埠頭行き」を利用し、みなとじま駅で下車してください(徒歩約10分)

<問い合わせ先>

小坂 素子(神戸女子大学・看護学部)

〒650-0046 神戸市中央区港島中町4-7-2

e-mail : kango-renkei@yg.kobe-wu.ac.jp